

平成 28 年 1 月 22 日（金）午後 3 時から
於・健康センター 4 階 第 4 会議室

第 5 回「小平市行財政再構築推進委員会」議事要録

出席者

【委員】吉田委員長、峯岸副委員長、川口委員、長島委員、大杉委員、小島委員

【市側】企画政策部長、行政経営課長、行政経営課長補佐 3 名、政策課長、政策課長補佐、財政課長

1 開会

本日の進行について説明・確認

2 「(仮称)小平市第 3 次行財政再構築プラン」の策定方針について及び小平市第 2 次行財政再構築プランのフォローアップについて

(峯岸委員)

第 2 次行プランは広く多くの課が推進担当課となり、取組を進めていましたが、第 3 次プランではもう少し重要な項目に絞り込んで取り組んでいく方が良いのではないのでしょうか。

市全体で取り組んでいくことは構わないと思いますが、影響の大きい重要な項目に絞って取り組んでいけば、行財政再構築推進委員会でも議論の集約ができますし、深く掘り下げていくこともできるのではないのでしょうか。

(行政経営課)

項目については今後絞り込んでいく予定です。また、社会情勢等を勘案し、新しいものも取り込んでいく予定です。

(委員長)

各項目が必要なことはわかりますが、あれもこれもということではなく、いくつか絞り込んで、次の計画期間の 4 年間で、これだけは改善していきますという内容にしたほうが良いと思います。

(峯岸委員)

例えば公共施設などは、ハードの部分だけでなく、それをどう運営していくかというソフトの部分というものも必ずセットで考えていかなければならないと思います。よって、例えばある公共施設を考えるとき、建て替えに併せて、その後の運営コストなども同時に考えていかなければならないと思います。

(委員長)

第 2 次プランは、地域協働の推進や情報の共有と双方向のコミュニケーションなど、一定の括りはなされているものの、これが何を指すのかが明確でない感じがします。体系図を作るなどして、何を最

終目指とし、どのような位置づけで改革を進めていくのかを、もう少し目に見える形で表す工夫をする必要があるのではないのでしょうか。

(川口委員)

第3次プランには、市長の方針を反映させることはできるのでしょうか。

(行政経営課)

行財政改革推進本部をこの委員会の前に開催しており、市長が本部長を務めております。その本部で第3次プランを策定していくわけですが、第3次プランは第2次プランより更に項目を絞って、市としてこういうことを取り組んでいきますという内容にしていく予定です。

(川口委員)

市長の方針としては何があるのですか。

(行政経営課)

公共施設マネジメントの推進というものをひとつの大きなテーマとして掲げています。これからの時代、人口減少や少子高齢化が進む中で推進していかなければならないテーマです。市長もタウンミーティングの中でもこういうことを話していくという方針を出しています。

それに伴い、我々も財政課、政策課と連携しながら取り組んでいく予定です。

(川口委員)

そうであれば、公共施設マネジメントに関するものを第3次プランの最初に持ってくるのか、そういう工夫の仕方があると思います。

(委員長)

第3次プランは、もう少し優先順位とかメリハリが感じられるプランにした方が良いと思います。コストパフォーマンスや費用対効果が考えられた形で行政が運営されることが大切であり、行政は赤字でいいという考えではなく、行政も儲けなくてはいけないという考え方に転換していかなければならないと思います。また公益財団法人などについても同様の考え方が必要であると思います。

(大杉委員)

第3次プランの策定方針は、第2次プランの策定方針と比べ、何か違う点はありますか。

また、東地区の方で宅地の開発が進み、人口が増えるという話を聞いています。市は、新たに小平市を魅力ある街にしていく方向に転換していく時期だと思いますが、そこにこのような新しい風が入ってくるというのはチャンスなのではないのでしょうか。

(行政経営課)

第3次プランの素案の策定期間及びパブリックコメントの時期を早め、平成28年11月には素案を

作成し、11月から12月にかけてパブリックコメントを実施する予定です。

市内の新しい動きについても、アンテナを広げ、情報収集しながら第3次プランに反映できるものは取り込んでいきたいと考えています。

(企画政策部長)

地方自治法の改正により、総合計画そのものが義務で無くなったことがあり、小平市でも計画の体系を見直しています。策定方針にあるように、第3次長期総合計画という小平市のベースとなる方向性を決める計画がありますが、以前はその下に基本計画があり、それが10年計画だったのですが、更にもうその下に、3年ローリングの実施計画があるという3層構造になっていました。その中の基本計画については、前期計画は作りましたが、後期計画は作らないことといたしました。時代の変化と、個別分野の計画がかなり充実してきたため、そちらの方に実効性を委ねる形にいたしました。

また、実施計画としてきたものを実行プログラムとし、市長任期に合わせた4年ローリングに変えたという経緯もありまして、小平市の計画のつくりが変わっております。

その実行プログラムは、平成28年度で4年目になり、次のプログラムが平成29年度からの4年間ということになっています。その実行プログラムとこの行財政再構築プランを同じ計画期間にし、より連携を取っていこうという点が第2次プランの策定方針と比べ、大きな違いであると認識しています。

宅地開発の関係は、花小金井の南町の方で、NTTの社宅がマンションになるという大きな動きがあります。1,000世帯規模の街ができるという動きがあり、市内で転居される方もいるので、すべてが市外からの転入というわけではありませんが、新しい若い世代の方などが入ってくることも考えられます。よって、保育ニーズや学童保育のニーズも増えてくることが予想されます。長期的な視点でいえば、人口減少、少子高齢化という点は小平市も一緒ですが、短期的には転入してくる若い方々に対する保育ニーズや子育てニーズについて、当面对応していかなければならないと考えています。

(委員長)

第3次プランは、現在のような分厚い計画書はやめた方がよいと思います。分量としては、せめて30ページ前後にし、職員がすぐ確認できるようなコンパクトなものにした方が活用しやすいものになるのではないのでしょうか。現状では一般的に総合計画書は分厚く、作った後は書庫でほこりをかぶっているということがよくありますが、そういうことはやめるべきだと思います。

また、職員アンケートや意向調査が重要だと思います。担当課の職員に、ある程度緊張感を持っていただき、メリハリのある形で職員を追い込むような質問を用意する必要があると思います。例えば公共施設であれば、関係各課がどういう公共施設利用のソフトウェアを新たに工夫するのかといったことや、統廃合はするのかということを含めて考える必要があります。

まちづくりという点でいえば、コンパクトシティというものが問われてきます。できるだけ人や都市機能を一定の市街地に集約し、同時に高齢化が進むわけですが、高齢者でも身近に商店や病院を使えるというような、集約化された市街地をいくつか作ることによって、市民に不便の無いまちの形成を求められています。その辺を含めて職員アンケート、意向調査を実施してほしいと思います。そして、職員に自分たちがやらなければならないという意識を持たせていただきたい。

(小島委員)

これから第3次プランを策定し、平成29年度からは実施していくわけですが、もう少し委員会を活用し、委員の皆さんに相談して知恵を拝借するなど、実りある委員会にしたいと思います。

最前線で働いている職員の皆さんの中には、これは重要で、解決を急がなければならないという意識を持って取り組んでいる事業もあると思います。そういったものをもっと委員会で議論できれば、実りのある委員会になっていくのではないのでしょうか。

また都市計画税について、小平市は税率が変化していますが、大きな税制の本格的な変更というものを考えていかなければならないと思います。変更しやすい一部分だけを変更するやり方は時期が早いのではないのでしょうか。これから更に財政は厳しくなると思います。その辺も問題提起していただき、委員の先生からも知恵を借りて、素晴らしい第3次プランにしていきたいと思います。

(財政課)

都市計画税について、小平市は都市計画事業が少し遅れておりまして、全部使い切らないという状況が何年か続いています。また都市計画税は目的税で、他では使えないということで、少し税率を下げました。それでもまだ使い切れない部分があるので、そちらは将来に向けて積み立てをしていくということにいたしました。今後駅前再開発ですとか、公園整備などの都市計画事業が控えておりますので、そうした事業が進む際に、まずは積んでいる基金を活用していくという考え方で進めております。

(長島委員)

この委員会での意見がどのように活かされ、何が変わったのかというところに興味があります。第1次プランから第2次プランに移行した時も何か変わっていると思いますが、第2次プランから第3次プランで何が変わるのかという観点から、重点を絞り込んではいかががでしょうか。

また、第3次プランを策定する際、もう少し危機感があることを前提にして策定すると良いのではないのでしょうか。例えば今後税金や人口が大幅に減るとか、そのような前提でもう少し危機感を持たせた方が、より質の高いプランに仕上がるのではないのでしょうか。

参考までに、私どもの信用金庫では、「来年の経費は3パーセント削除」と言われ、「できるわけない」というところからスタートします。その中で右往左往し、知恵をしぼり、協力しようとしています。しかし、目標値が低いと、職員は危機感を持ちません。第3次プランは目標を厳しくしたらどうでしょうか。

(委員長)

厳しい財政状況の中で、いろいろ苦勞していると思いますが、シーリングというやり方ではなく、事業に優先順位を決め、政策を選別し、予算の圧縮を図り、そこで捻出された財源でまちづくりを行うというやり方に転換していかなくてはならない時期ではないのでしょうか。

(財政課)

事業単位で見直しを実施していきたいという認識はございます。これまでは事業仕分けなど、第三者の方にご協力いただき、見直しを実施してきた経緯はありますが、それでもなかなか切り込めなかった部分も残っています。

(委員長)

難しいことかもしれませんが、仕分けに関して、うまく進まない部分はトップがリーダーシップを発揮し、この事業はスクラップしますという形で進めなければいけないと思います。

(峯岸委員)

行財政再構築というものは、最終的には財政面をどのように立て直すかということだと思います。しかし第2次プランの中でも、財政に絡む部分はなかなか切り込めていないような感じがします。受益者負担の適正化や補助金の見直しといった、財政に絡む部分はなかなか進んでいない感じがします。

(長島委員)

大切なのは、何を結果として報告するのかだと思います。その報告について、この委員会で議論できれば良いと思います。これまで何回か委員会に出席してきましたが、そのような議論ができないと、会議で議論する意味が薄れる感じがします。

(企画政策部長)

行政が行う仕事はなかなかお金に換えられるものではありませんが、役割分担を変えていくということは重要なことだと考えています。よって、市民だけでなく企業などに依頼すれば進められるところは積極的に進めていかなければならないと認識しています。

成果をどのように出していくかということですが、成果指標をどのように設定していくかというところを大きく議論していかなくてはならないと考えております。これまでは進捗状況について様々なご意見をいただいていたところですが、今後は第3次プラン策定にあたり、成果指標についてもいろいろとご意見をいただきたいと考えております。

また、成果指標で示せる部分と、なかなか数値的に出せない部分もありますので、そこは皆さんのお知恵を借りたいと思っています。

(委員長)

成果指標は抜本的に見直さなくてはいけないと考えています。第3次プランでは、まず成果指標をしっかりと設定し、その根拠を明確にする必要があると思います。

また、項目の再整理が必要です。各項目の内容を見直し、体系化することをしっかりやっていただきたい。市民や職員に、何を最終的な目的にして、何を実施するのかということをつかりやすい形で整理していかなければなりません。

(峯岸委員)

財政指標の中で、経常収支比率や基金残高がありますが、地方交付税の不交付団体となるためには、厳しい財政指標が必要であると思います。自立的な自治を考えた場合、地方交付税の不交付団体になることが望ましいと思いますが、小平市は不交付団体への復活は難しいのでしょうか。

(財政課)

一定の標準的な行政需要に対して、どれくらいの収入があるか、つまり税がどのくらい入ってくるかが問題となってきますが、約1,700ある団体の中で、地方交付税の不交付団体は60団体程度です。その不交付団体になるということは、相当税収に恵まれていないと難しいと認識しています。小平市も不交付団体のときは非常に景気が良く、大手企業の法人市民税が入ってきたという状況がありました。よって、税収は景気動向に左右されやすく、不交付団体として継続していくことは難しいと認識しています。

(川口委員)

今後フォローアップ期間となり、同時に第3次プランも策定していきますが、職員の業務が増えるようなことはやめた方が良くと思います。もし第3次プランの稼働までに1年間の期間があるなら、フォローアップというよりは、例えば、成果指標の抜本的な見直しだけをフォーカスして取り組むという形でも良いのではないのでしょうか。私としては、フォローアップ期間は必要ないのではないかと思います。

(委員長)

前例踏襲、手続き志向から脱却し、結果成果志向の様式にできるだけ組み替える作業を行っていただきたい。

(大杉委員)

職員アンケートについて、職員の皆さんが言いにくいことはたくさんあると思いますので、それを出しやすい設問設定にしていきたい。いらぬものはいらぬと言えるようなアンケートにした方が、有効なアンケート結果が得られるのではないのでしょうか。業務はできるだけ簡素化し、必要ないものをどんどん出し、スリム化していきたい。

第3次プランは策定期間が1年あるので、新しい風を取り入れながら、職員の皆さんで協力し、素晴らしいプランにしていきたい。

(川口委員)

小平市文化振興財団について、運営側は赤字を出しても良いという話がありましたが、公益財団法人の会計から、赤字にしないと剰余金が減らないということでしたので、剰余金は市に返してもらって、解散したほうが良いのではないのでしょうか。

(大杉委員)

小川駅について、なかなか駅前開発が進んでいません。小川駅周辺をもう少し活性化させて魅力あるまちづくりをしていただきたい。税収は限られていますので、あとは、いかに外の人がお金を落としてくれるかだと思います。小川駅は若い人も利用していますし、企業とも連携しながら開発を進めていただきたい。

以上